

「日本の展望 2020（仮称）」の各論に対する委員からのコメント

コンテンツ番号	頁	委員等からのコメント
全体		著者の名前をどこに記すか。
全体		各章の最初に、その章の紹介となる文章を入れる。
全体		3のタイトルを「文化の発展とジャパン・クール」としたらどうか。
全体		コンテンツの順番を、3, 4, 5, 6, 7, 1, 2, 8, 9としたらどうか。
全体		専門用語をどこまで説明なしで用いるか、が気になりました。
全体		複数の執筆者が、SDGsの説明をしています。各章・項を単独で読むことを想定するとこのままで良いと思いますが、通して読むと気になります。
全体		いかに生を終えるか、という問いがどこにも触れられていないことに気づいた。尊厳死のみならず、どこまで疾病の治療を行うべきか、などの論点が考えられる。結論の出る問題ではないが、この問題について、どこかで言及できないだろうか。
全体		(各論だけでなく総論にも共通しているが) SDGs ウォッシュではないにしても、SDGsのどれかに合致していればその章はオーソライズされていると言わんばかりの書き方は学術的ではないのではないか。SDGsをも批判的に見るのが学術。そのような批判的視点は「SDGsであれば誰も文句を言えなくなるような方向を懸念すべき、学術が学術以外のものに縛られるのは問題というもの」(p.189)に限定されるものではなく、トレードオフ問題などへの学術的視点が必要ということ。たとえば少子化・人口減はエネルギー問題に関してはプラスに働く。SDGsを使うのであれば、目標間のトレードオフに言及するような批判的・反省的な利用がほしい。(そのような利用は、他のコンテンツとの関係に言及することにもなる)
全体		前回は議論になったが、原発、憲法(改憲)、安全保障は2030、2050を展望する上ではやはり避けられない問題(であるために、抜けていれば誰もがすぐ気づく問題)。論点整理・両論併記方式でよいので加えられないだろうか。
全体		「持続可能な開発のための2030アジェンダ」など、何度も出てくる用語に関してはその都度説明せず、用語集に入れる。
全体		明確に「提言(提案)」を明示しているコンテンツとそうではないコンテンツがあり、これは揃える方がよい。(提案の類を削除することまでは必要ないが、全体を「提言」にしないことになったため、目立たせない。)
全体		全体として多様性を謳う一方で、各国ランキングなどの序列化が目立ち、一律の基準で評価しているという相反する印象を与える。
全体		1-1は、1-2、1-3と比べてまとまりがなく、何を論じようとしているのかわかりにくい。企業の社会的責任論は個人の尊厳という論点からずれるのではないか。
全体		一般の方に見てもらいたいと思いつつ、研究室事務(社会科学分野の出身、女性)の方に短時間(2時間程度)で閲覧してもらい、わかりにくいところや面白いところをメモしてもらいました。初めて接する分厚い提言案にびっくりして、「一体誰が読むんですか?」が最初の質問でした。
1-1(1)		1-1の(1)は、全体として、個人の尊厳というよりソーシャルキャピタルを増やそうという議論ではないか。「社会の幸福」=「個人の幸福」? 社会的孤立は本当に貧困と関連している? 「互いに手をさしのべ合う社会へ」の節を図3に関連させなくては説得力がないように思われる。

1-1(1)	3	「変化する世界」の節は総論と重なる。公正と共生に関することに限定できないか。
1-1-(1)	3	「夏冬はかつてよりしのぎやすくなりましたが」とありますが、猛暑だったり、冷夏だったり等、極端化してきているように思います。
1-1-(1)	4	ノルウェイとありますが、ノルウェーではないでしょうか。
1-1-(1)	5	「友人、同僚、その他の人」との交流がない人の割合を示していますが、図4では、「家族以外の人」と交流がない人の割合となっている。
1-1(1)	5	最後、「ここから」というところで話が終わっているため、やや拍子抜け感がある。冒頭のSDGsの説明を取り、この部分を書き足してはどうか。
1-1-(2)		(1)に比べて難しい用語が多すぎる
1-1(2)	7	人権についてわかりにくい。
1-1(2)	7	・タイトル「国際社会と人権」のうち、「国際社会」が活かされておらず、全体として何を論じようとしているのかわかりにくい。人権条約の歴史を入れる必要性が見えない。 ・個人通報制度とは？
1-1-(2)	7	「人が尊厳をという特別な価値・・・」は、「人が尊厳という特別な価値・・・」では。
1-1-(3)		社会経済生産性本部については、(公財)をつけた方が良いのでは。
1-1(3)		現状だけではなく、これからの企業の在り方という視点を提示する必要があるのではないか
1-1(3)		優良企業として大企業のみが言及されているところに違和感。
1-2(1)	12	ジで改行となっています。
1-2(1)	13	経済社会理事会は、国連経済社会理事会とした方が良いのでは。4行下では、国連経済社会理事会としている。
1-2(1)	13	「男らしさ」からの解放が面白い
1-2(1)	13	アンコンシャス・バイアスを具体的にどう無くすんだろう？
1-2(1)	16	取締役クオータ制と取締役クオータ法の両方の用語が用いられておりますが、別のものでしょうか。
1-2(2)		もう少し将来のイメージを語ってもいいのではないか
1-2(3)		もう少し将来のイメージを語ってもいいのではないか
1-2(4)		もう少し将来のイメージを語ってもいいのではないか
1-2(4)	24	この前までのジェンダーの項目に比べて、内容が薄いと感じる。コンテンツ4での、医療の進歩により2030、50には障害も認知症も減少していくという展望に言及しながら新たに言えることなどないのか。
1-2(4)	24	「社会的障壁」が面白い
1-3(2)		図表が多すぎるような気がする。文章で数値を示せば済むようなこともありそう。
1-3(2)	28	「在日外国人の子どもの就学状況」については、多文化共生分科会の提言案「外国人の子どもの教育を受ける権利と修学の保証」(査読中)を注記することが望ましい。
1-3(2)	28	「外国人に対する人権侵害とヘイトスピーチ」についても、地域研究基盤整備分科会より報告「最近の対外的緊張関係の解消と日本における多文化共生の確立に向けて」が発出されているので、

		注記が望ましい。
1-3(2)	30	最後が「人権教育が求められる」で終わっているが、対処法はこれだけなのか？
1-3(2)	32	国籍離脱者数と国籍喪失者数が増加傾向であることについて、「日本社会に同化しやすい環境を作るだけでなく、日本社会の側も彼ら／彼女らの出身社会の文化を尊重する姿勢」が必要だと結んでいるが、本当にそれが主たる原因なのか？ 経済的理由等は？ 日本国籍の人の海外移住も数に含まれているのでは？
1-3(2) と 1-3(3)	26-32	1-3-(2)と 1-3-(3)は重複があることから、調整ないし合体が必要。
1-3(2)	33	・2020→2030 ・子どもの教育に関する議論は前節と重複
1-3(3)	33	「AI を使った多言語音声翻訳システム」については、ややもすれば、辞書を使って直訳するだけのものだと捉えられがちなので、言語構造のみならず、文化的背景なども加味したシステム作りを進めることにより、広く、深い相互理解が可能になる、といった記述も必要ではないか。
1-3(3)	34	「日本社会の慣行、たとえば入試や長時間労働・・・その存在意義や有効性について、なんら疑問を抱くことなく続いている」という記述は誤解を招く。「外国人にも入試を受けさせること」など、正確な表現を。 「多言語に対応する人びとの数が増えていくことが望ましい」後のコンテンツで、AI の発達により言語の障壁を乗り越えられるという論が出てくるため、それを踏まえた上でなお言えることを。 「「排除」と「包摂」の単位や基準を複層化あるいは分散化することにより、ある程度緩和する道筋を探る」これをこの節の中心的論点とし、詳しく書く方が充実すると思われる。
1-3(4)	35	第一段落が総論的すぎる
1-3(4)	35	アバタ、他の執筆者の文中（P128）ではアバターとなっています。次ページの「アバタにジャックインする」など、IT 業界での用語は一般の読者に通じるのでしょうか。
2-1(1)	38	「ポツンと一軒家」の例について。 ・TV 番組であればヤラセの可能性もある。たとえヤラセはなかったとしても、採用されなかったいくつもの不幸な一軒家の事例があるのではないかと。よって、学術的文書で論拠のように用いることはできないのでは。 ・「ポツンと一軒家」は「取り残された」事例ではないのか（←SDGs「誰一人取り残さない」）。奇しくも、「誰一人取り残さない」というスローガンの一面性をこの事例は示していないか。 ・「ポツンと一軒家」がなぜ可能なのかについて学術的説明がほしい。
2-1(1)	38	「ポツンと一軒家」の意味がよくわからない
2-1(1)	38	「第一に」 第二に、がなく、どれが2番目の論点なのかわかりにくい。
2-1(1)	40	「共進化」という語は使うべきでない。「共存・共栄」ぐらいにしたらどうか。
2-1(1)	40	「「他者」との共進化を図るための政策的援助を望みたい。」で終わっているが、やや丸投げ感あり。少なくともどのような政策かの明記を。
2-1(3)	42	年金問題への言及が簡単すぎないか
2-1(3)	42	「給付と負担」についてが難しい
2-1(4)		図が多すぎるような気がする。
2-1(4)	48	割合が高くて、となっています。

2-2 (1)	52	(以下、「貧困率」という。)の。を取る。
2-2(2)	55	地域格差の海外との比較が面白い
2-2 (3)	58	「伝統的な経済学では」は、伝統的な経済、でしょうか。
2-3 (1)		ランキングの指す意味が分かりにくいように思います。
2-3 (1)	60	「SDGs 第1目標のうち1.2は」は、「SDGs 第1目標のターゲット1.2は」としたらどうでしょうか。
2-3 (1)	61	(の部分)
2-3(2)	62	「社会の自己解決力」が面白い
2-4(1)	68	総論の割には、学校教育に関する記述が薄い。
2-4 (1)	68	「科学技術の進化」は「科学技術の発展」に
2-4 (1)	69	「世界と比較スル中」は「世界と比較する中」に
2-4 (1)	70	吉野さんの発言に引用年号を入れる。
2-4 (2)	72 — 74	言葉の重複が目立つ。
2-4(2)	72	「卒業後の日本企業への就労に対する制約が米国や英国より小さいことが挙げられます」←情報源がもう少し必要ではないか。
2-4(2)	73	「フィールドワーク」の語はここでは何を指しているか。(3行下ではとくに防災・減災に限定されているのはなぜか)
2-4 (3)		1-2 (1) との重複をなくすこと
3 序	78	「無関係ではまったくありません。」は、「まったく無関係ではありません。」に
3-2		「私」という表現は改めたほうが。
3-4(1)	84	「非芸術は存在しない」は面白い
3-5	87	「基礎にりました。」は、「基礎になりました。」に
4-1 (1)	96	「挙児」という語がわかりにくい。 「ご自分の」は「自身の」にしたほうが。
4-1(2)	98	「ケア」がよくわからない
4-1(4)	102	プロダクティビティが人間の存在価値と想定しているように受け取れてしまう
4-1(4)	102	「節減効果」 ←何費の? 介護コスト?
4-2 (3)		表現を少し優しくしたほうが。たとえば「common disease」といった英語は日本語のほうがいいのでは。
4-2(4)	109	ゲノム情報の個人を超えた活用が面白い
4-3(1)	111	「社会整備」は何をするのだろう?
4-3 (1)		英語はできれば日本語に訳したほうが。「人工知能技術」はAIと訳すなら、「人工知能」のほうがいいのでは。難しい用語が多い。たとえば「技術開衣鉢」など。
4-3 (2)		少し難しい用語が多いような気がします。

5-2 (3)	128	「企業との協業する」は、「企業と協業する」でしょうか。
5-4(1)	131	「プローブデータ」は、一般の読者に通じるのでしょうか。
5-4(2)	132	「データポータビリティの本質」がよくわからない
5-5		少し英語の解説が要るかも。
5-5(1)	135	「Moore の法則」て何？
6-1 と 2		提案の整合性を確認しておく必要があるのでは。
6-1(1)	140	「人口の歴史的変遷」が面白い
6-1(3)	145	自然に還す土地、本当にできるのかな？
6-2(1)	146	4の「先行事例」はどこのことなのか、情報を出してはいけないのか
6-2(1)	148	どのような条件下での「2050年の展望」なのか
6-4	155 — 56	行数を調整。
6-5	159	「ペティ・クラークの法則」は解説が必要。
7-1(1)	166	図が1979年ではいささか古いのでは
7-1 (2)		引用の「」を「。」で終わるのはふさわしくないのでは。
7-1 (2)	166	「及ぶが」は「及びますが」のほうがいいのでは。
7-1(3)	168	「炭素同位体 C13 比」は、「炭素同位体 13C/12C 比」、「炭素の安定同位体比」ではないでしょうか。
7-2(1)	173	「破壊的イノベーション」の説明は不要でしょうか。
7-2(1)	174	「非連続的なイノベーションを誘発するために政府の支援が必要ですが、」…研究費を求める記述はコンテンツ 1~8 まで他には記載はなく (?), ここだけ出ているのは違和感
7-3	177	「シェアリングエコノミー」や「サーキュラーエコノミー」は用語解説の必要があるのでは。
7-3	177	「GHG 排出削減を大幅に減らす」は、「GHG 排出を大幅に減らす」でしょうか。
7-4	178	(藤本、学術の動向) は引用年を記して、参考文献を挙げる必要があるのでは。
7-4	178	エネルギー教育、教育的価値、は面白い
7-5(3)	181	「持続可能な開発」が重複しています。
7-5(3)	182	「バーチャルウォーター」の説明は不要でしょうか。
7-5(4)	183	「協働協治」は、「協働・協治」とする必要はないでしょうか。
7-5(4)	183	「環境流量」とは何？
8-2	189	日本学術会議と SDGs の関係がよくわからない
8-2(1)	191	「共感のための科学」…誰の説か？ 芸術こそ好き嫌いが分かれ、共感を得るとは限らない。芸術を手段化するのいかなるものか。
8-3-1	193	大規模施設・設備を必要とする学術分野において、有限な予算のなかで、どのプロジェクトを選択するかも重要ではないでしょうか。

8-3-2	195	最初の文に主語がないようです。「私」で始まる文章は避けるべきでは。
8-5	203	「テークホルダー」は、「ステークホルダー」では。
8-5	203	「政策決定者へ向け要約」は「政策決定者向け要約」では。
8-5	204	「市民と科学の距離の近い未来」とは一体どんな未来？
8		SDGs の取り組みがあちこちで見られる。少し統一できないか。
9-1		「学術」と「科学」は同義と言っていますが、両方出てくるとわかりにくい。学術を「芸術も含めた、知的探求の営為」としてはいかがでしょうか。
9-1	208	学術、科学、研究・・・科学の営みとしては同義では？
9-2		「技術」に合わせた「社会」を考えるのではなく、幸福な「社会」とは何かを考えたいうえで、それをもたらす「技術」を考えるべきではないでしょうか。現代は「技術」が先導していることが問題なのではないかと思います。
9-2	211	「現在までの営みの客観的に」は「現在までの営みを客観的に」では。
9-2	212	「一見全くやくに立たない」は、「一見全く役に立たない」では。
9-2	215	「仕組み解明する」は、「仕組みを解明する」に。
9-2	215	「次の一歩も踏み出していきたいものだと思っています。」の主語は私でしょうか。あまり私を出さないほうがいいのか。
9-2 (2) 第二部	219	「筆者らは進化的な見地からゼニゴケに注目しました。」とありますが、なるべく「私」を主語にしないほうがいいのか。
9-2 (2) 第二部	221	「我々」や「私」を主語にした文章にしないほうがいいのか。
(2) 第二部	221	「ドグマ」とは何？
(3) 第三部	226	難しくわからない、「圏論」とは何？
9-3(4)	233	I F、インパクトファクタとは何？
9-4(1)	234	テニユアとは何？
9-4(1)	235	「日本の学生はアメリカよりも問題解決力が高い」、本当か？